



北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No20
文責 芹川博文
9月20日(金)

「温かくて 優しい社会に」 たくさんの関わりを持ちながら 笑顔で暮らす

少年の主張熊本県大会に菊池郡市代表で出場する松永 祐佳さん(2年)の作文を紹介します。

(前略)先日、あるニュースが目にとまりました。熊本県では、外国人労働者が2万人を超え、過去最高となり、10年前より2倍以上に増加したそうです。菊陽町にTSMCの半導体工場ができたことで、台湾出身者が前年の5倍あまりにまで急増し、今後もさらに増えていくことが予想されるそうです。そのため、町全体でも文化の異なる土地で快適に暮らしてもらおうと、様々な取り組みをされているとのこと。私はこのニュースを見て、外国人との交流が、これからもっと身近になっていくのだろうと思いました。(後略)

夜になると我が家からも TSMC と思われる明かりが見えます。「国家プロジェクト」とも言われる大きな変化。その影響は、ここ菊池でも感じられます。その変化をどのように受け止め、考えていくかで、その行動や受け入れ態勢は大きく変わるのではないのでしょうか。

松永さんは続けます。「生活習慣や食文化、言語など、国が違えば文化も全く異なってきます。だからこそ、その違いがおもしろいのではないのでしょうか」と。そして、「最後に、一番大切な事は、互いの文化を尊重し、認め合うことです。日本人も外国人もたくさんの関わりを持ちながら、笑顔で暮らしていける、そんな、温かくて優しい社会になってほしいと思います」と。

松永さんの訴えは、昨今の世界情勢や、SNS 等の誹謗中傷による「分断」の社会に一石を投じるものだと感じました。そして、「私たちは微力だけど、無力じゃない」という言葉(長崎の高校生による核廃絶の訴えの言葉)にも通じるものだと感じました。

“ヒトカマ”の時代到来!? 人と人が ふれあう大切さ

「カニよりもカニカマのほうが好き」— 下の新聞記事を読んで、考えさせられました。『人よりもヒトカマのほうが面倒でない』という時代が来ている」という内容だったからです。自分にとっての「快適さ」を追求していく時代の流れ。その延長線上には、「学校とは何か」という問いも突きつけられていると感じます。学校に来て、人と触れ合い、学び、遊び、笑い、時に悩みながら過ごす学校生活。オンライン授業との違いは何か、快適さ、便利さの追求だけではないものは何かを考えさせられます。

そのヒントを、先日の「第2回読み聞かせ」を通して感じました。どの教室にも流れる、温かく優しい空気。ゆっくりと噛みしめながら語られる物語と語り手の方の思い。



「今回はどの本を紹介しようか」と選書され、朝から中学生に話をしていただく読み聞かせボランティアの方々。人と人がふれあう大切さ、同じ空間に「いる」ことの大切さを感じました。生徒たちが「楽しい」「がんばった」と、共に感じ合える瞬間を増やしたいと思います。

2024.9.15

新生面

新聞や雑誌で短歌投稿欄の選考をしている歌人の穂村弘さんは、日常的な出来事を詠んだ作品から「市井の人々の思いを教えられる」という(『迷子手帳』講談社)▼気になっているのは「カニよりもカニカマのほうが好き」という内容の歌が増えていること。歌人は理由を分析する。食べやすい、生臭くない、安い、コンビニで買える…。うーん。カニカマはものすごく進化しているのかもしれない、と▼すべてのカニがカニカマに置き換わることを想像し、歌人は「なんとなく不安」になる。その延長線上に「すべての存在が高度に洗練された代替品に置き換わる未来を感じるからだろうか」。最終的にヒトもヒトカマに、いや、すでに…と想像は膨らむ▼こちらも、そんな未来への一歩なのか。人工知能(AI)を使った営業支援が生命保険業界に広がっている。例えば、営業トークの内容をAIが指南するシステムがある。顧客の年代や性別に応じた雑談の話題を提案したり、訪問のタイミングを知らせたりする▼営業職員の経験不足を補い、仕事の効率を高める狙いがあるという。ほかにも営業現場での自らの発言を再現するとAIが採点したり、顧客への提案を助言したり。これまで先輩や上司が教えていたことを代替しているかのよう▼穂村さんは「面倒臭くて雑味の多い生身のヒトよりも、純度が高く消費しやすいヒトカマを求める気持ちが、自分の中にもある」と考察する。先輩たちの熱い激励、温かいひと言は普話になるのだろうか。